浜松南高新聞
発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

58年度進学・就職の状況

現役合格の栄冠をつかめ
合格率下降線をたどる

〈進学〉　〈就職〉

五十年から高校で実施されている教育課程も施行二年目を迎えた。「ゆとりと多様化」を目指すこの新課程は、必須授業時間の激減・学習内容の易化（英語の必修単位数・数・理科の履修範囲の縮少など）全体的な学力低下という大きな変化をもたらしている。

一方、大学側からみると今年は過日実施された六十年入試の最要によると、二次科目の追加や小論文を課したり、新たに社会・歴史・国語の総合問題を設定する大学もあるなど、むしろ受験生の負担が増える方向に動いている。また出題内容についてもほぼ従来通りのレベルが維持されるものと予想されている。現役生が直面する入試は「ゆとり」とは無縁に厳しいものになりそうで、それだけ現役生は不利な立場に立たされている現役生は、この事実を正面に捉えし、新課程がもたらすハンデを克服して、現役合格の栄冠をつかんでほしい。

▼卒業単位数の減少▲

「ゆとりと多様化」をうたった新教育課程では、卒業単位数が旧課程に比べ、減っている。とりわけ目立つのは（表1）に見る通り主要教科の必修単位がほぼ半減していること。新旧課程とも必須ではないが、英語の選択時間となると、新課程の「多様化」を反映して、中学段階から極端に少なくなっている。

▼易しくなった教育内容▲

端的な例が英語。（表2）に見る通り、高校卒業までに習得する最多語"数は、旧課程の四七〇〇に対し、新課程では一七五〇も少ない二九五〇となっている。これも単純に共通一次の得点としてみると、新旧で二〇〇点近い差が予想されることになる。新課程で習得する文法項目、十五項目削減されている。

▼記述・論述力では浪人組が先行▲

かつてのマーク式入試全盛の後遺で記述・論述力の低下傾向が目立っているが、ゆとり」の新課程ではなおのこと、この点が懸念される。予備校や模試などで記述・論述力に磨きをかけてくる浪人生がこの面で有利なのは当然である。現役生諸君は、今後模試を受験する場合、修得度的な模試ではなく大学入試に直結した模試を受験するよう心がけ、模試に多く参加する機会を増やすことが望ましい。

▼大学側はレベルダウンを歓迎しない▲

では、大学側は新教育課程にどう対応しようとしているのか。

共通一次では、（表3）の英語の出題範囲になされる通り、各教科とも新課程を基準とした出題となりそうである。ということは、問題がそれだけ難しくなるわけで、平均点が下がる（昭和八年度五教科七科目の平均六三〇・一点に対し、六七〇点位になると予想される）ことも、必然的に、難度がつきまといということになる。こうしたことも背景になって、大学側には独自の二次試験をこれまでにまして重視しようとする姿勢がうかがえる。この五月に文部省がまとめた六十年度国公立大学二次試験の教科・科目の傾向による、入試教科・科目を美術的に新しく増やさなど受験生の負担を強いる大学・学部がかなり目立つ。新課程で新たに受験生のレベルダウンが懸念されているだけに、それを補う形での教科・科目

正しいメガネでしあわせを…
メガネの吉田屋
広小路店　浜松駅前　広小路通り　☎21－1100
ふたもん店　浜松駅交差点（共立ビル1階）　☎21－0100
本店　浜松一番一丁目（三二一番）　☎25－5110

表1　必修単位数

教科＼区別	新課程	旧課程
国語	4	9
社会	4	10
数学	4	6
理科	4	6
英語	—	—
計	16	31

表2　英語習得語彙数の新・旧課程比較

新		出題範囲	旧		出題範囲
中学	900～1,050	共通一次・私大	中学	950～1,100	二次・私大 共通一次
英語Ⅰ	400～500		英語B1年	700～1,100	
英語Ⅱ	600～700		英語B2年	800～1,200	
（小計）	1,900～2,250		（小計）	2,450～3,400	
英語ⅢB	400～700		英語B3年	900～1,300	
（総計）	2,300～2,950		（総計）	3,350～4,700	

論説

責任は誰にあるのか？

「全体責任」という言葉をよく耳にする。特に日本人が好んで使う言葉であるようだ。では「全体責任」とはいったい何なのか。そして果たしてそれが正しい考え方であるのだろうか……。

私達は小さい頃から"集団の中で一人の責任は全体の責任である"と聞かされて育った。これがいわゆる「全体責任」であるが今もなおこのことを聞かされている。では果たしてこの考え方は正しいのであろうか……。

事実、その考え方は浸透していると思う人はすくなくないであろう。単純に考えれば"一人の責任であるから全体の責任である"と思うのが「全体責任」とうるのだから予想していないか、と考えるかいても不思議ではない。実際このような単純に思われる考え方が成り立っている面もある。むしろそういう国の方が多いかもしれない。

ではなぜこのような考え方が日本人は正しいとしているのか…。

理由は簡単である。日本人のほとんどは一集団の中で一人一人がまったく同じ性格をもった同一の人物と考えるからである。例えば体育館の中に全校生徒が集まりそろって整列している。校長は「この学校の生徒の三、三千人は何なんだ」という人はまずいないだろう。

そうして考えてみると「全体責任」という考え方は秩序の維持に役立っているのではないだろうか。明日からでも私達の集団に対する考え方が変わっていくことが望ましい。

しかしどこでは忘れてならないことがある。それは「全体責任」ということである。一人の責任が全員の責任と誤解されているかである。

世の中はそんな人のいい人ばかりではない。人のためにしかし実際にはどうだろう。「しっかりしてくれよ」という言葉をよく聞くようだ。

しかし実際にはどうだろう。世の中はそんな人のいい人ばかりではない。人のためにしかし実際にはどうだろう。

（当然）一人一人何ごとも真剣に取組まれるべきである。一日目、二日目、三日目と日を重ねていくにつれ、一人一人が真剣に取組まれるべきである。

しかしながら、一人一人が真剣に取組まれるべきである。

しかしながら、一人一人が真剣に取組まれるべきである。

しかしながら

多彩な新企画で活発化を計る

いよいよ十月から、新役員十五名による後期生徒会本部がスタートした。そこで、豪華絢々の新本部の方針やねがいなどについて、積極的な意見を聞いてみた。

新本部では、「生徒に会員としての意識を高めさせ、生徒会活動を活発化させる」という方針に基づいて進めていき、更に、「本部と生徒との一体化を目指そう」ということになった。そのためには生徒との意見交換を頻繁に行ない生徒はどんな意見を持っているのか、本部に何を要求しているのかを知る必要がある。現在、前期にひき続いて行なわれている本部と生徒との意見交換の手段として、どのようなものがあるのかをあげてみよう。

まず、生徒から本部への意見はアンケートや代議員会などを通じて伝えられている。そして、本部から生徒会への伝達は、生徒会だよりや時間委員会、昼休みに行なわれている。これらは、これからもひきつづき行なわれる。

更に、今度新しく行なわれようとしていることもある。まず初めに、生徒会新聞放送を使い、生徒会本部役員の仕事の様子を見てもらおうということが考えられている。また、座談会を開いたり、放送で呼びかけたりすることも計画されている。

役員としては、これらのことを通して、協力性を高めたいということである。

新生徒会が他に新しく試みようとしていることに、二つの大きなことがある。

一つは、「応援団」の結成となるものを作るということである。現在の南高は、野球部がないため、部活動を積極的にみんなで盛り上げていこうという意識に欠けるところがある。学校に活気をもたらしたり、女子バスケットボールを中心とした各部に頑張ってもらうためにも、まず応援団を結成したいものである。

もう一つは、他校との交流を行なうことである。南高をよりよくするために、他校の生徒会と意見を交換して、よい点を取り入れていこうということになった。現在は郵送によって資料の交換を行なっているが、これからは各校が他校を訪問して、本校の行事を参考にするために年間行なうことを中心に、直接に話し合うことが計画されている。この代表者には、本部役員だけでなく、一般生徒からも募集するつもりだということである。今はまだ準備段階であるが、新学期には実行されるであろう。

他にも、社会参加の面で新しく実施されたものもあった。「ちいさなふれ愛キャンペーン」である。一円玉募金やベルマーク・古切手の収集は今までもおこなっていたが、それを時に強化していくことになった。また、ボランティア活動を行なったり、お年寄りに年賀状を書いたりするという心暖まることも始められた。このようにして、社会参加の活動を広げようとしている。

また細かいことはいくらでもあるが以上が大まかな内容である。どれを取り上げてみても、本部役員たちが南高をよくしていこう、活発にしようとしていることがうかがえる。生徒の意見を尊重しているのが、それとも、それらの意見を聞き入れてもらえない時もあるとといって、単に非難するのではなく、できない理由があるのだという方向に本部に要求するだけではなく、本部役員たちに協力して生徒自身が動くことによって、意見が通いあいたいものである。

▼生徒会長

21HR　伊藤浩一

僕は、日本語がうまくない。とーきょー言ょっきょひゃひゃひゃひゃ……。早口は勿論のこと、アクセントは悪いきもんとやらなくてはいけないことを忘れてはならない。

▼副会長

23HR　畑　昌代

コンニチハ。はじめまして。

▼副会長

24HR　斉藤公誉

十月十七歳になったばかりの青春、真中少年です。ですので、突然であったり、色々なアイディアを出しまくっているのです。

新生徒会役員の方々
左：斉藤副会長　中央：伊藤会長　右：畑副会長

▲がんばってます！

新生徒会本部

▲浜名・金谷両校を迎えての三校交流会

厳しい批判の目

〈浜名高校　金谷高校〉両新聞部来校

十一月五日（土）の午後、静岡県立浜名高校、静岡県立金谷高校の二校の新聞部部員計九名が、三校合同の交流会を目的に本校を訪れた。

交流会では主に「部活動」「規則」「行事」「生徒会」「学校生活」を熱かしあい、お互いの知らなかったことが出来た。

金谷高校は本校とは違い、クラブ活動は一本立てである。野球部が活発であるせいか学校全体が明るく活発な印象を受けた。

毎年、創立記念にはバレーボール大会などが行われる。また、毎年春に一度遠足があるそうだ。そういった行事の少ない本校の生徒である必要はないが、うらやましく聞いているばかりであった。

話しは文化祭へと移った。

金谷高校の文化祭の内容は、文化クラブ発表、有志参加のコーナーなどで、本校と変いといった感じであった。

浜名高校では、「部活動」「規則」「行事」「生徒会」「学校生活」を熱かしあい、お互いの知らなかったことを知り合える収穫を得ることが出来た。

金谷高校は本校とは違い、クラブ活動は一本立てである。野球部が活発であるせいか学校全体が明るく活発な印象を受けた。

毎年、創立記念にはバレーボール大会などが行われる。また、毎年春に一度遠足があるそうだ。そういった行事の少ない本校の生徒である必要はないが、うらやましく聞いているばかりであった。

話しは文化祭へと移った。

金谷高校の文化祭の内容は、文化クラブ発表、有志参加のコーナーなどで、本校と変いといった感じであった。

浜名高校では、会長一人副会長も一人という生徒会本部体制をとっており、こちらの活動はかなり活発であるようだ。

十一月五日（土）の午後、静岡県立浜名高校、静岡県立金谷高校の二校の新聞部部員計九名が、三校合同の交流会を目的に本校を訪れた。

交流会では主に「部活動」「規則」「行事」「生徒会」「学校生活」を熱かしあい、お互いの知らなかったことが出来た。

金谷高校は本校とは違い、クラブ活動は一本立てである。野球部が活発であるせいか学校全体が明るく活発な印象を受けた。

毎年、創立記念にはバレーボール大会などが行われる。また、毎年春に一度遠足があるそうだ。そういった行事の少ない本校の生徒である必要はないが、うらやましく聞いているばかりであった。

話しは文化祭へと移った。

金谷高校の文化祭の内容は、文化クラブ発表、有志参加のコーナーなどで、本校と変いといった感じであった。

浜名高校では、会長一人副会長も一人という生徒会本部体制をとっており、こちらの活動はかなり活発であるようだ。

中でも驚いたのは、生徒会の力で最近、規則の変革に成功したということである。内容は「学校時には、学生カバンを持ってくる」というものを、スポーツバックだけでも良いようにしたことと、制服の違反基準を変更したことである。本校は、生徒会だけの力で一つでも何か大きな目的を達成するという姿勢を見習いたいものである。

それがどうやら本校の日頃言われている"やとたいい"、"厚く言うと""不活発"な知人観をより強くしたのであろう。

『まったく、やはり聞いていたとおりおそたいい』という意見には、ガックリしてしまった。

また、部活動では"女子バスケット部"でしか南高を知らなかったという。本校とは、そんなものなのであろうか。

地味ではあるが、本校の特色の一つであるボランティアサークル"あしの根"も知られていなかった。南高が実際的に大きなものにすることが、こうした活動をより大きくすることにつながるのである。その力はどこにあるか。

答えは簡単でもわかっているとであろう。それが実行されないばならない現実、今回の交流会では強く感じさせられた部分であった。

他校を知る、本校を知ってもらう交流会において、今回は収穫百発、南高校を知る、という結果に終わったようである。

金谷高校、浜名高校も、大変すばらしい学校であった。本校ももう一歩成長したいものだ。

理屈では誰もがわかっていることであろう。それが実行されないばならない現実、今回の交流会では強く感じさせられた部分であった。

他校を知る、本校を知ってもらう交流会において、今回は収穫百発、南高校を知る、という結果に終わったようである。

金谷高校、浜名高校も、大変すばらしい学校であった。本校ももう一歩成長したいものだ。

DO! SPORTS エアロビックスの巻

色とりどりのビタミン剤、スタミナドリンク…最近の日本人はヒステリックなまでに"健康"を追い求めているようだ。しかし、そういうものへの関心が高いわりには、日曜日にゴロ寝を決め込む人のなんと多いことだろうか。

しかし人間の体は、酷使酷使と言って、使わなければ必ずカタが来るもので、適度の刺激がないと、脳神経の機能が衰え、勝負や筋肉を弱体してしまう。日曜日ゴロ寝で過ごした場合より、適度に運動した方が、日曜日の体力の回復は早い。このことは、すでに実験的に証明されている事実である。「ビタミンEだ、Cだ」なんと神経質になるよりは、気軽にスポーツを楽しむ方が体のためにはるかにいいのではないだろうか。

さて、一年ほど前にはジャズダンスが流行したが、現在はエアロビックスが真っ盛りだ。ジャズダンスはテンポの速い運動だが、エアロビックスはちょうどいえばスローテンポである。

動きの速い運動は、筋肉の収縮のときに酸素を使わない無酸素性運動。しかし、酸素なしの運動はわずか三十秒しか続かないという一短に陥る動かしたのはいいけれど、後が大変というわけだ。

これに対して、動きの遅い運動は、酸素的に力は出さないかわりに、運動中の呼吸でとり入れた酸素を利用するため長続きする。そして、酸素を体内に効率よくとり入れる機能が高まる。

エアロビックスはこうした運動である。"年齢にたった運動を心きずにやる"これがスポーツ効果を最大に高める秘訣である。

青年期を、よい素質させるために、何か新しいスポーツに挑戦してみたらどうだろう。自分の可能性が開けるかもしれない。

先生だより

今回で第一回めの「先生だより」は、国語科担当の川村武代先生をクローズアップしてみました。

まず先生の家族についてお話しましょう。義理のお父さん・お母さん・旦那さん・そして小学校二年生の長男史郎くん・幼稚園の年少の次男有輝くん・また二才の長女志穂ちゃんの七人家族です。

さて、史郎くんは小学二年生ですが"ボクは良い子なんだ"とかなり自分に自信を持っているとか…。一方有輝くんは、わりとコンプレックスを持っているとか…。

次に志穂ちゃんですが、なんでも、最近関西弁を覚えた言葉が"E・T"なのだそうです。またその次に覚えたのが"いーちゃ"と数字の「一」だというのが、なかなか傑作ですね。

次に旦那さんについては、かなりそれなりに覚えてくれました。つきあったのは、二年目頃だそうでがなりのスピード結婚です。

―プロポーズはどちらから？

という質問に、困ったからも「結婚したかったから、あちらから言ってきたんだ。」

―どうして教師になったんですか？

という質問には

「まずは一生きていかなくちゃならないからね！」

と笑いながらおっしゃり、

「父が書道師になったからってそれほど影響されたんですよ。それほど影響されたんですね。それからもう教師になってから、十年程たったそうです。

―南高学校ってどう思いますか？

「うん。だからこそ立派なものだと思う。とってもいい生徒たちだ。」

と、ほめられてもいる。

そして、旦那さんからのおなさんは、子供たちの頃のようすをよくそれ、特に志穂ちゃんが一番手のようです。

お母さんは、子供たちの頃のようすをよくそれ、特に志穂ちゃんが一番手のようです。

次に、旦那さんの趣味は、

「手は一生きていかないといけないからね！」

と、笑いながらおっしゃり、

「父が書道師になったからってそれほど影響されたんですね。それほど影響されたんですね。それからもう教師になってから、十年程たったそうです。

―南高学校ってどう思いますか？

「うん。だからこそ立派なものだと思う。とってもいい生徒たちだ。」

と、ほめられてもいる。

そして、旦那さんからのおなさ